

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 私たちを支える税金

福島市立福島第二中学校 3年 佐々木 涼帆

「来年あなたが高校生になったら、教科書もたくさん買わなくてはならないから大変だね。」笑いながらそういう母の言葉に私は違和感を覚えた。なぜなら、小学生の時も中学生である今も、使っている教科書は税金によって無償で支給されていることを知らず、両親が私に買ってくれていたと思っていたからだ。

そんなことをきっかけに改めて税金についていろいろ調べてみると、教科書の例はほんの一部であることが分かった。毎日通学している道路の維持、毎日授業を受けている校舎の維持、私たちの安全を守ってくれる警察や消防。普段私たちが当たり前と思っている大半のことが税金で支えられている。では、誰が税金を支払って私たちの生活を支えているのだろうか。それは、私の両親であり、祖父母であり、近所のおじいさんやおばあさんであり、何より私自身だった。

社会人は働いて得たお給料から税金を支払う。働いていない私たちのような学生も物を買うときに消費税という形で納税する。納税により、みんなが不自由なく生活できる社会を支えている実感はないが、自分が納めた税金が社会を支える一部を担っていると思うと少し誇らしい気持ちになった。そして、同時に「税金は足りているのだろうか」という不安な気持ちも生まれた。

今の日本を表すキーワードの一つに少子高齢化がある。高齢者が増え続ける中、医療や介護、年金などに使われるお金は増えていく。しかし、高齢者の生活を支える若い人の数はどんどん減っていくことが予想されるため、今の税のしくみでは立ちゆかなくなるそうだ。その時々々の社会の状況によって税のしくみや負担額を増やさなければ、私たちが当たり前と思っている私たちを支える社会のしくみ自体が破たんしてしまう。

外国に目を向けるとどうだろうか。北欧は消費税率が高いことで有名であり、日本

の消費税が八%に対しデンマークは二十五%だそうだ。日本の三倍以上の負担であることを考えると単純に大変だなあと感じてしまうが、デンマークは「世界一幸せな国」と呼ばれている。税の負担が大きい一方で、教育費や医療費は無料であるなど社会保障制度が充実していることが一つの理由だそうだ。負担額以上に、支えられている感覚があることから高い税金に対する不満がないのだろう。

それぞれの国によって環境は様々であり、一概には言えないが、子供や高齢者、身体にハンディキャップがある方などを含めこの国に住む全ての人々が幸せに暮らすためには税金によって生活を支えるしくみが必要であり、その重要性はこれからますます増してくるのだと思う。私もこれから社会人になっていく。ひとりひとりの力は限られているが、減少傾向にある若者の一人として、しっかりと納税し、自分の幸せそしてみんなの幸せのために貢献していきたいと思う。